



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP



市長が発表した内容は
こちらから

国際会議で前橋発信

6月21日から23日まで、イタリアのオルビエート市で開催されたスローシティ国際会議に、市長や市議会議員などが参加。本市の取り組みを市長が発表しました。その後市長はフランスで、ミシュラン国際都市ネットワーク加盟のあいさつと今後の活動調整を行いました。



ドキドキミツバチ体験

まえばしハニープロジェクトの一環として、7月20日に前橋テルサで「夏休みミツバチ体験教室」を開催。参加者はミツバチに関するクイズを交えた講座や屋上の養蜂場での養蜂体験をとおり、ミツバチの自然界での役割や重要性を学びました。



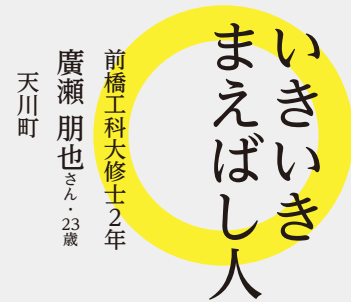
広瀬川の芽吹きを語る

7月7日、七夕まつりに合わせてめぶくフェスを開催。今回はワークショップなどの他、めぶくフェスの今後や広瀬川の再整備を考えるシンポジウムを実施しました。また、夜7時7分には広瀬川交水堰^{せき}周辺で広瀬川の芽吹きを願い乾杯。多くの人が集いました。

空き家を若者が集う学習空間に

まちなかの弁天通りの一角に空き家を活用した学習空間「benten study place」が開設された。運営や講師を学生が行うこの学習空間で代表を務めるのが廣瀬さんだ。所属する研究室の活動の一環で、空き家の活用について地域の空き家部会などと検討を重ねてきた。

「資金はクラウドファンディングで募りました。企業の他、商店街の人や活動に賛同してくれた一般の人からの支援もありました。地域をどうにかしたいという思いや動きをすごく感じましたね」
利用する中高生は自習学習が基本。しかし、群馬大医大生が常在し必要に応じて利用者の質問に答える。
「協力してくれる医大生は友達づてに探して、今は12人以上が集まりました」
カフェのような居心地の良い空間に同世代の生徒と講師が集う。廣瀬さんの活動によってまちなかに新たな若者の居場所が生まれている。



前橋工科大修士2年
廣瀬 朋也さん 23歳
天川町



暮らし生活課
☎027・898・6510



都市部から前橋へ生活拠点を移し、赤城南麓を中心とした市内のさまざまな場所で活動する地域おこし協力隊。このコーナーでは、5人の協力隊が交代で日頃の活動を紹介します。今回は林利和隊員です。

自伐型林業は、自然が豊かな前橋だからできる仕事としてアピールできそう。都会からの移住促進にも効果を発揮するのはと期待しています。他の活動をしつつ、林業にも関わってほしいところ。都会で人混みにもまれながら仕事をしていた経験から、「林業＝副業」という新たな形にとってもひかれています。これからはメンバーと一緒に、美しい森林を守っていききたいと思っています。

7月で協力隊での活動が3年目に。農業、狩猟といった都会ではできない活動をする中で自伐型林業に出合い、「自伐型林業まえばしTEAM」という団体を立ち上げて活動しています。
この自伐型林業とは、森林の経営や管理などを山林所有者や地域住民が自ら行う林業。山や森を間伐しながら自然の恵みを得て、長期的に収益を出していく新しい仕組みです。間伐は従来の皆伐林業とは違い、日本に適した日本古来の林業でもあります。日本最大の資源である森を生かし、自然の中で収益を出していきます。